

# S I D R

(滋賀県感染症情報)

SHIGA Infectious Diseases Report

《月報》  
平成 23年 5月  
(第18 ~ 21週)

発行年月日：平成23年(2011年) 6月14日  
発行：滋賀県衛生科学センター内  
滋賀県感染症情報センター  
電話 077-537-7438 FAX 077-537-5548

## 1) 全数報告の感染症(一類～五類)

全国の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は、保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。また、届出により全国または滋賀県で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症 類型	疾 病 名	平成 23年				平成 22年 <sup>*1</sup>		感染症 類型	疾 病 名	平成 23年				平成 22年 <sup>*1</sup>	
		1～4月		5月		1～12月				1～4月		5月		1～12月	
		滋賀県	全国	滋賀県	全国	滋賀県	全国			滋賀県	全国	滋賀県	全国	滋賀県	全国
一類	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	四類	鳥インフルエンザ	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0		ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0		日本紅斑熱	0	1	0	7	0	133
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0		日本脳炎	0	1	0	0	0	4
	ベスト	0	0	0	0	0	0		ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0		Bウイルス病	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0		鼻疽	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	1	0	2		ブルセラ症	0	0	0	0	0	2
	結核	103	8,720	24	2,427	251	26,704		ベネズエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0		ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0		発しんチフス	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0	0	0	0		ボツリヌス症	0	2	0	0	0	1
三類	コレラ	0	1	0	1	0	10		マラリア	0	17	0	6	0	76
	細菌性赤痢	2	64	0	16	2	235	野兔病	0	0	0	0	0	0	
	腸管出血性大腸菌感染症	0	237	6	278	66	4,131	ライム病	0	2	0	0	0	13	
	腸チフス	0	2	0	3	0	32	リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	
	バラチフス	0	10	0	2	1	21	リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	
四類	E型肝炎	0	23	0	5	0	66	五類	類鼻疽	0	0	0	0	0	4
	ウエストナイル熱	0	0	0	0	0	0		レジオネラ症	4	160	0	48	10	751
	A型肝炎	0	108	0	14	3	346		レプトスピラ症	0	4	0	1	0	20
	エキノコックス症	0	9	0	1	0	17		ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0
	黄熱	0	0	0	0	0	0		アメーバ赤痢	1	244	0	58	7	845
	オウム病	0	7	0	0	1	11		ウイルス性肝炎	1	76	0	15	3	222
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0		急性脳炎	0	120	0	21	0	241
	回歸熱	0	0	0	0	0	1		クリプトスポリジウム症	0	3	0	0	0	16
	キャサナル森林病	0	0	0	0	0	0		クロイツフェルト・ヤコブ病	1	33	0	13	2	171
	Q熱	0	0	0	0	0	2		劇症型溶血性 レンサ球 菌感染症	1	75	0	21	3	127
	狂犬病	0	0	0	0	0	0		後天性免疫不全症候群	1	430	1	89	1	1,549
	コクシジオイデス症	0	2	0	0	0	1		ジアルジア症	0	22	0	4	1	80
	サル痘	0	0	0	0	0	0		髄膜炎菌性髄膜炎	0	1	0	4	0	7
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	先天性風疹症候群	0	0	0	0	0	0	
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	梅毒	2	206	1	52	9	621	
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	破傷風	1	24	0	15	0	106	
	炭疽	0	0	0	0	0	0	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	
	チクングニア熱 <sup>(*)</sup>	0	3	0	0	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	18	0	4	2	121	
	つつが虫病	0	43	0	38	2	406	風しん	1	86	1	64	5	89	
	デング熱	1	33	0	5	2	245	麻しん	0	184	0	97	1	455	
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	動物の 感染症	鳥インフルエンザ(H5N1)の鳥類	0	66	0	3	0	9
(*) : 感染症法の一部改正(平成23年2月1日施行)により、2月からの集計。 - : 未集計 <sup>*1</sup> 感染症発生動向調査事業年報(国立感染症研究所感染症情報センター、暫定数)							細菌性赤痢のサル	0	3	6	6	0	59		
							エキノコックス症の犬	0	0	0	1	0	0		

(\*)：感染症法の一部改正(平成23年2月1日施行)により、2月からの集計。-：未集計  
\*1 感染症発生動向調査事業年報(国立感染症研究所感染症情報センター、暫定数)

## 滋賀県における全数報告感染症の概要 (5月)

### < 結核 > 24名

性別：男性 13名、女性 11名  
類型：患者 16名  
無症状病原体保有者 8名  
病型：肺結核 11名  
その他の結核 5名  
無症状病原体保有者 8名

### < 腸管出血性大腸菌感染症 >

性別：男性 4名、女性 2名  
類型：患者 2名  
無症状病原体保有者 4名  
年齢：0～9歳 1名、20～29歳 2名  
30～39歳 2名、50～59歳 1名  
血清型・毒素型：  
O157・VT1&VT2 2名  
O26・VT1 1名、O6・VT2 1名

### < 後天性免疫不全症候群 > 男性 41歳

推定感染経路は異性間性的接触で、推定感染地域は日本国内です。また、病型は無症候性キャリアです。

### < 梅毒 > 男性 30歳

推定感染経路は異性間性的接触で、推定感染地域は日本国内です。また、病型は早期顕性梅毒です。

### < 風しん > 男性 44歳

推定感染経路は不明で、推定感染地域は日本国内です。また、ワクチンの接種歴は2回とも不明です。

### < 細菌性赤痢のサル > 6例

感染原因は、保菌ザルの入荷によると推測されます。

## 2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のうち、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症を定点把握対象感染症といいます。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります(疾患により定点数は異なります)。また、疾患によりインフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点および基幹定点に分かれています。

### 5月の概要

#### <インフルエンザ>

第18～21週(5/2～5/29)の定点当たり患者数は、毎週、前週より約半減し、第21週(5/23～5/29)には0.36となっていました。インフルエンザの発生は、終息しつつあると思われます。

#### <小児科定点疾患>

今月増加した疾患は、咽頭結膜熱(プール熱)、A群溶レン菌咽頭炎、水痘、百日咳、手足口病およびヘルパンギーナで、他の疾患では減少しています。特に、咽頭結膜熱および水痘で、大幅に増加しています。(各疾患の週別発生状況については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

各疾患の保健所管内別発生状況では、咽頭結膜熱は草津および東近江、手足口病は高島、伝染性紅斑(リンゴ病)は大津市、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)は彦根からの報告が多くなっていました。

また、疾患別保健所管内別の警報・注意報発生状況は、下記のとおりです。

#### <眼科定点疾患> <基幹定点疾患>

眼科定点疾患である流行性角結膜炎は先月より急増し、約3倍増となっています。特に、大津市保健所管内からの報告が多くなっていました。急性出血性結膜炎の報告はありませんでした。基幹定点疾患では、細菌性髄膜炎は先月と横ばいでした。マイコプラズマ肺炎は先月よりやや増加していました。細菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎ともに、東近江保健所管内からの報告でした。また、無菌性髄膜炎およびクラミジア肺炎の報告はありませんでした。

感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システムによる警報・注意報発生状況(平成23年第18～21週)

疾患名	18週 5/2～5/8		19週 5/9～5/15		20週 5/16～5/22		21週 5/23～5/29		警報発生基準値 警報開始基準値 警報終息基準値		注意報発生基準値
咽頭結膜熱(プール熱)					草津 東近江		草津 東近江		3.00	1.00	-
水痘		甲賀	長浜 高島						7.00	4.00	4.00
手足口病			高島		高島		高島		5.00	2.00	-
伝染性紅斑(リンゴ病)		大津市	大津市		大津市 長浜		長浜		2.00	1.00	-
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		彦根	彦根		彦根		彦根		6.00	2.00	3.00

空白部分については、警報発生基準値および注意報基準値に該当する保健所管内はありません。

：警報開始基準値または警報終息基準値を超えています。：注意報発生基準値を超えています。

数字はすべて定点当たり患者数(人)です。-：注意報の対象外という意味です。

#### <各定点の対象疾患>

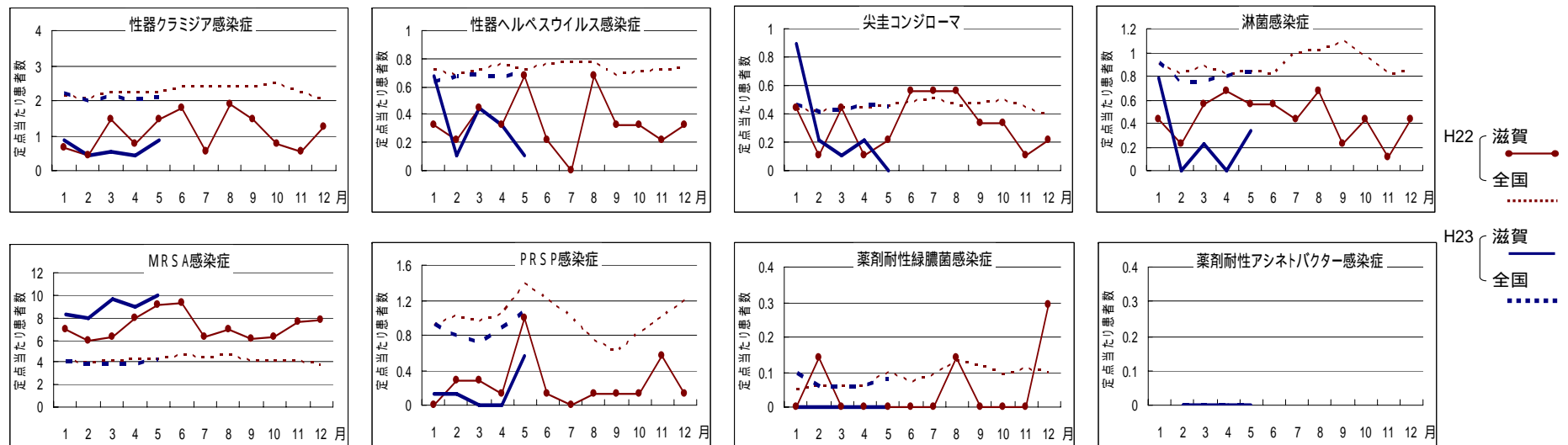
定 点	疾 患 名
インフルエンザ定点	インフルエンザ
小児科定点	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱 A群溶レン菌咽頭炎、水痘 感染性胃腸炎、手足口病 伝染性紅斑(リンゴ病)、百日咳 突発性発しん、ヘルパンギーナ 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)
眼科定点	急性出血性結膜炎 流行性角結膜炎
基幹定点	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎 マイコプラズマ肺炎 クラミジア肺炎(オウム病を除く)

全国集計などの詳細な集計結果は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)において公表されています。

### 3) 性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成23年5月)

疾患名	区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
性器クラミジア感染症	報告数	8	4	5	4	8								29
	定点当たり患者数	0.89	0.44	0.56	0.44	0.89								3.22
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	6	1	4	3	1								15
	定点当たり患者数	0.67	0.11	0.44	0.33	0.11								1.66
尖圭コンジローマ	報告数	8	2	1	2	0								13
	定点当たり患者数	0.89	0.22	0.11	0.22	0								1.44
淋菌感染症	報告数	7	0	2	0	3								12
	定点当たり患者数	0.78	0	0.22	0	0.33								1.33
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	報告数	58	56	68	63	70								315
	定点当たり患者数	8.29	8.00	9.71	9.00	10.00								45.00
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	報告数	1	1	0	0	4								6
	定点当たり患者数	0.14	0.14	0	0	0.57								0.85
薬剤耐性 緑膿菌感染症	報告数	0	0	0	0	0								0
	定点当たり患者数	0	0	0	0	0								0
薬剤耐性 アシネトバクター感染症 <sup>(*)</sup>	報告数	-	0	0	0	0								0
	定点当たり患者数	-	0	0	0	0								0

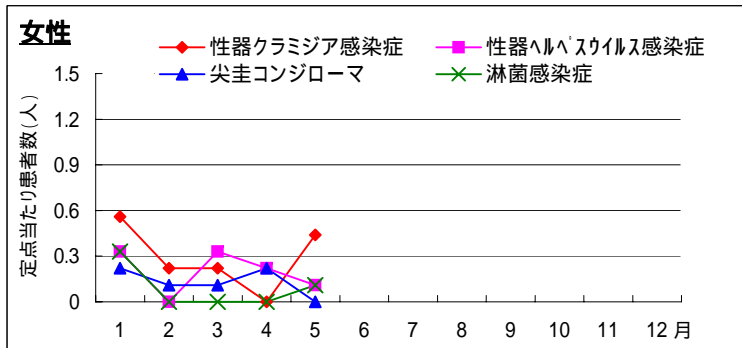
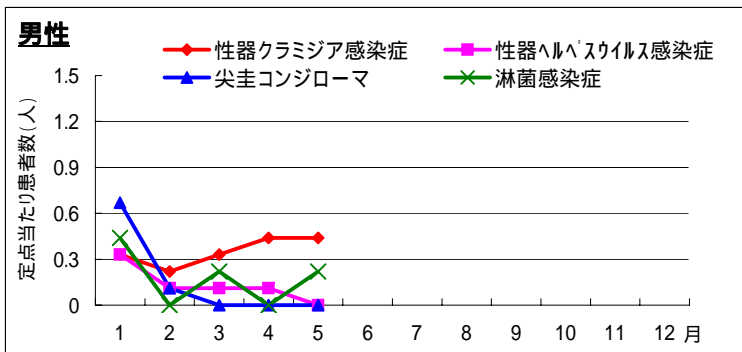
\*: 感染症法の一部改正(平成23年2月1日施行)により、2月からの集計。 -は未集計。



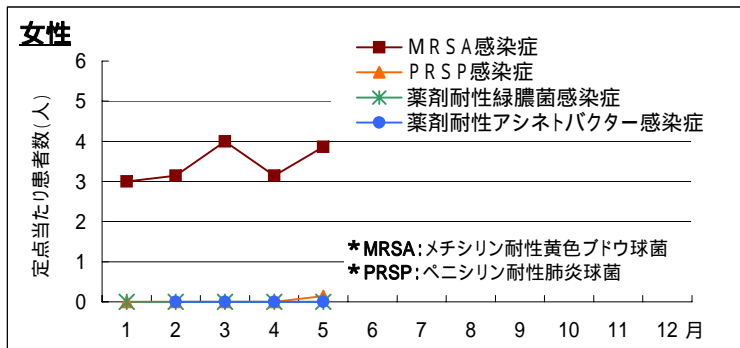
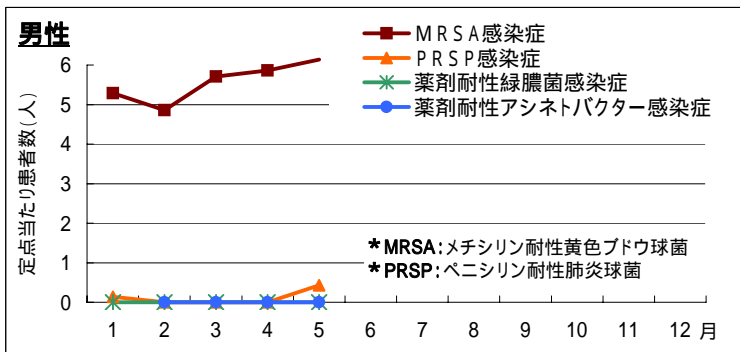
滋賀県における発生状況を先月と比較すると、増加した疾患は性器クラミジア感染症、淋菌感染症、MRSA感染症およびPRSP感染症で、減少した疾患は性器ヘルペスウイルス感染症および尖圭コンジローマです。また、薬剤耐性緑膿菌感染症および薬剤耐性アシネトバクター感染症は報告されていません。特に、性器クラミジア感染症、淋菌感染症およびPRSP感染症は大幅に増加しています。

MRSA: メチシリン耐性黄色ブドウ球菌  
PRSP: ペニシリン耐性肺炎球菌

## 性感染症定点における疾患別発生状況



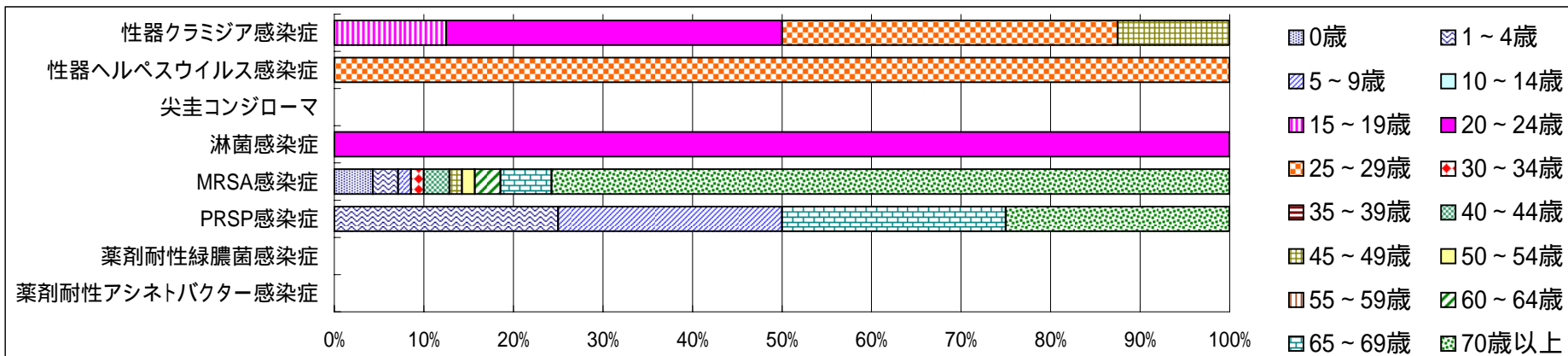
## 基幹定点における疾患別発生状況



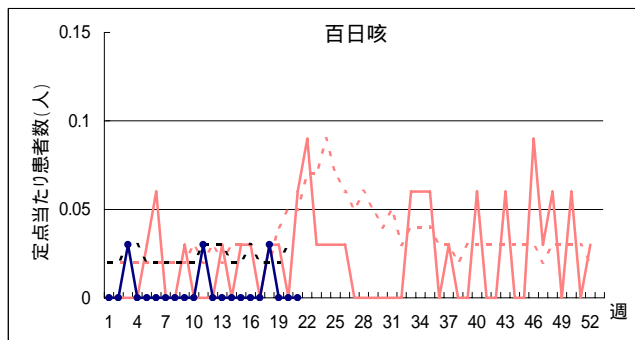
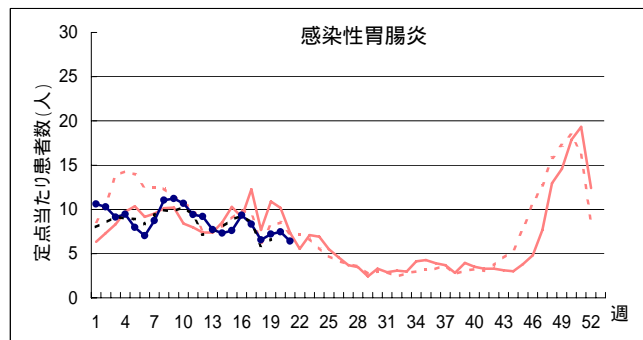
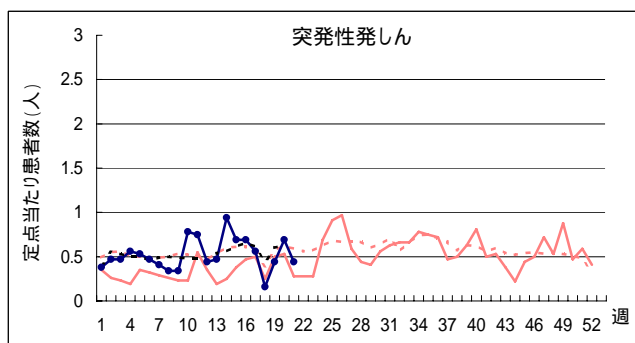
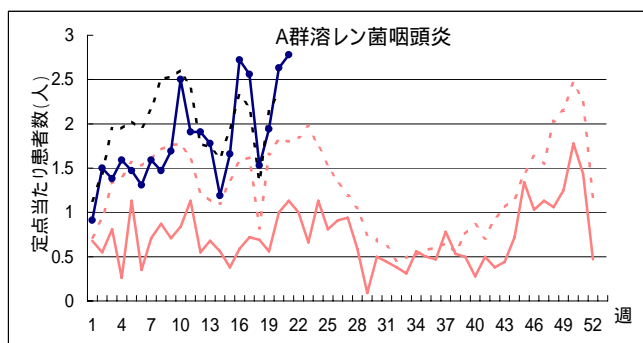
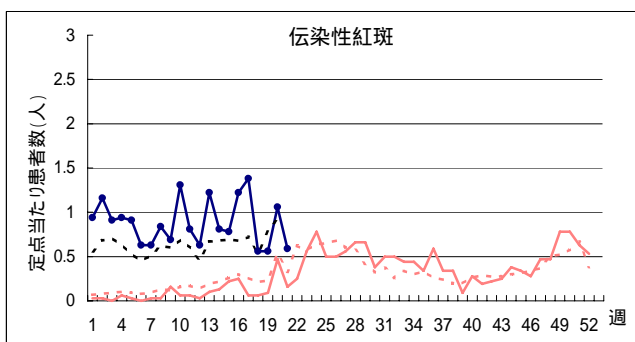
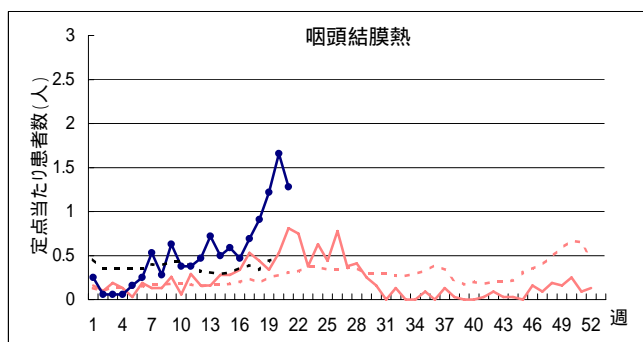
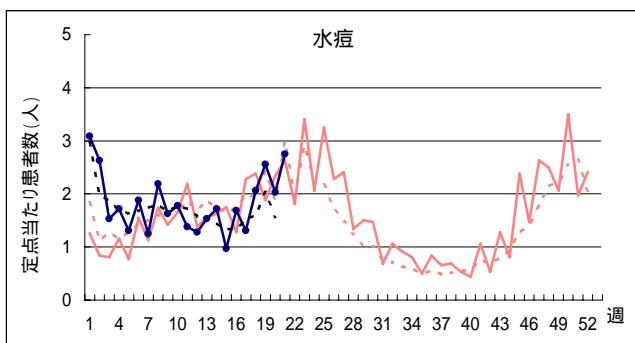
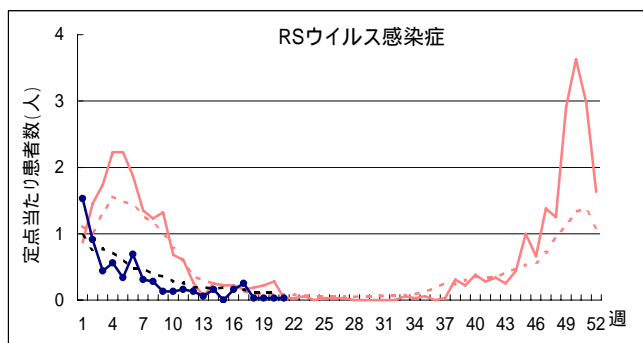
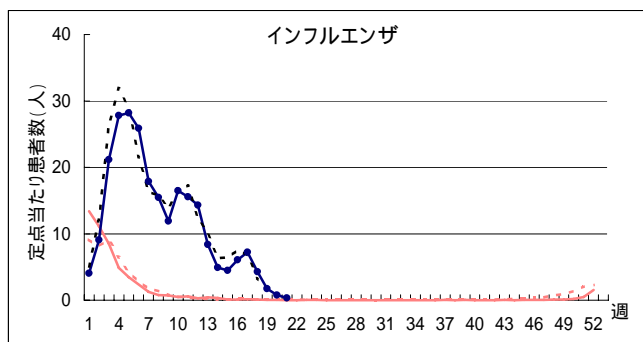
性感染症定点および基  
幹定点における各疾患の  
月別・性別発生状況は、  
左記グラフに示すとおり  
です。性器クラミジア感  
染症は、男性では先月と  
横ばいですが、女性では  
先月より大幅に増加して  
います。淋菌感染症は、  
男女ともに先月より増加  
しています。PRSP感染症  
は、男性で先月より大幅  
に増加しています。

また、各疾患の年齢別発生状況は、下記グラフのとおりです。性器クラミジア感染症では、男女ともに20～29歳からの報告が多くなっています。特に、男性では、15～19歳からも報告されています。

**疾患別・年齢別発生状況 (H23.5)**



# 疾病別定点当たり患者数(平成23年第 1 ~ 21 週、H23.1.3 ~ H23.5.29)



# 疾病別定点当たり患者数(平成23年第 1 ~ 21 週、H23.1.3 ~ H23.5.29)

